



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月31日

上場会社名 株式会社 王将フードサービス
コード番号 9936 URL <http://www.ohsho.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 直人

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 広報部長 (氏名) 内田 浩次

TEL 075-592-1411

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	18,242		839		900		565	
29年3月期第1四半期								

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,008百万円 (%) 29年3月期第1四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	30.19	
29年3月期第1四半期		

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	65,124	43,702	67.1
29年3月期			

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 43,702百万円 29年3月期 百万円

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期の数値は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		60.00		60.00	120.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		60.00		60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	38,416		2,549		2,724		1,705		91.07
通期	77,696		5,680		5,947		3,895		208.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期及び対前年同四半期増減率は記載していません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	23,286,230 株	29年3月期	23,286,230 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	4,563,459 株	29年3月期	4,563,459 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	18,722,771 株	29年3月期1Q	19,070,321 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

＜ 連結経営成績サマリー ＞			
	金額	構成比	前年同期比(参考)
売上高	18,242 百万円	100.0 %	0.3 %増加
営業利益	839 百万円	4.6 %	15.4 %減少
経常利益	900 百万円	4.9 %	18.1 %減少
親会社株主に帰属 する四半期純利益	565 百万円	3.1 %	14.8 %減少
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全店客数前年同期比3.0%減(既存店4.7%減)…直営店実績 ・ 既存店売上高対前年同期比1.1%減収…直営店実績 			

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、良好な雇用環境に牽引された米国では景気回復が続き、段階的な利上げを実施、中国では政策支援と内外需要の回復を受けて持ち直しの動きがみられるなど、景気は回復傾向にあります。しかし、北朝鮮問題や各地で頻発するテロなど、景気を冷やしかねない地政学リスクや、米国の経済政策や英国のEU離脱といった不確実性があり、見通しは下振れする懸念もあります。

このような世界経済のもと、わが国経済は、輸出や生産の堅調な動きが続いており、企業収益や雇用環境の改善が進み、個人消費は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費者物価指数の前年比上昇率は日銀による目標2%を大きく下回っており、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動に留意する必要があるなど、先行きは決して予断を許さない状況にあります。

外食業界におきましては、雇用所得情勢の改善持続と消費者マインドの持ち直し、生鮮食品価格の騰勢鈍化や訪日外客数の増加等もあり、サービス消費は回復基調にありますが、深刻さが続く人手不足への懸念や、コンビニエンスストアなどの他業種との競争の激化など先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況下当社グループは、労働環境の整備に重点を置きながら、店舗と工場、本社が一致団結して業容拡大に向けた取組みを進めてまいりました。前年に実施した3年連続ベースアップに引き続き、定期昇給と等級制度見直し分を含む組合の月例給引き上げ要求に対し満額回答するなど、従業員の処遇改善を優先し続けてまいりました。また、障がい者雇用のための特例子会社「株式会社王将ハートフル」の認定を取得するとともに、海外におきましては、台湾に1号店「餃子の王将 高雄漢神巨蛋店」をオープンし、日本を意識していただける「クールジャパン」をコンセプトとした内観と、水餃子を“主食”とする食文化の台湾の方々に対し、焼き餃子を“おかず”として食べる日本の食文化をご提案し、売上が当初計画の2.6倍となるなど、大変好評を博しております。

2017年12月24日に創業50周年を迎えるにあたり、この50年支えてくださった全てのステークホルダーに感謝するとともに、ガバナンス強化による基盤構築から100年企業へ向けての攻めの年と位置づけ、“Back to The Basic”を合言葉に原点へ立ち返り、「QSCの向

上」のもと営業力の強化に向け、ALL王将で次なる一步を踏み出していくため、全従業員が創業50年の感謝を示す記念バッジを着用し、「創業50周年特別メニュー」を毎月販売するとともに、7月より「創業50年お客様感謝キャンペーン」と題し、お客様のご利用額に応じ従来の「ぎょうぎ倶楽部カード」や無料お食事券に加え、数量限定のロゴ入り食器などのオリジナルグッズともれなく交換していただけるキャンペーンを開始しております。一方、株主の皆様には、配当性向50%の株主還元方針をお示しし、実質利回りの向上により当社株式への投資魅力を高めるとともに、株主様に中長期的に保有いただくことを目的として株主優待制度の拡充をいたしました。

今の当社があるのはステークホルダーの皆様のおかげであるという感謝の気持ちを忘れず、お客様から「褒められる店」を目指し邁進して参ります。

当第1四半期連結累計期間の店舗展開の状況につきましては、直営7店、F C 1店の新規出店を行っております。これにより第1四半期末店舗数は、直営493店、F C 232店となりました。

① 売上高

売上高は、新店効果等もあり、182億42百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

② 営業利益

営業利益は、人件費や減価償却費の増加等もあり、8億39百万円（前年同四半期比15.4%減）となりました。

③ 経常利益

経常利益は、上記理由等により、9億円（前年同四半期比18.1%減）となりました。

④ 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記理由等により、5億65百万円（前年同四半期比14.8%減）となりました。

なお、当社は前第1四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第1四半期会計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同期比を参考として記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は、651億24百万円となりました。

流動資産は、139億65百万円となりました。主な内訳は現金及び預金が116億52百万円です。

固定資産は、511億58百万円となりました。主な内訳は土地が208億57百万円、建物及び構築物が145億55百万円です。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、214億22百万円となりました。

流動負債は、170億96百万円となりました。主な内訳は短期借入金が50億円、1年内返済予定の長期借入金が34億68百万円です。

固定負債は、43億25百万円となりました。主な内訳は長期借入金が28億38百万円です。なお、借入金の残高は113億6百万円となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、437億2百万円となりました。主な内訳は利益剰余金が371億67百万円です。以上の結果、自己資本比率は67.1%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、116億45百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、5億1百万円(前年同四半期比74.8%減)となりました。主な要因は未払消費税等の減少です。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益9億20百万円に減価償却費7億55百万円等を加えた額から、未払消費税等の減少額3億36百万円、法人税等の支払額9億18百万円等を減じた額です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、5億87百万円(前年同四半期比57.1%減)となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出の減少です。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出6億9百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億33百万円(前年同四半期比95.5%減)となりました。主な要因は自己株式の取得による支出の減少です。

主な内訳は、借入金の純増加額9億90百万円による収入から、配当金の支払額11億23百万円による支出を減じた額です。

なお、当社は前第1四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第1四半期会計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同期比を参考として記載しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当初(平成29年5月15日決算発表時)の見通しに対して、業績予想は変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	11,652
売掛金	344
商品及び製品	134
原材料	314
その他	1,552
貸倒引当金	△32
流動資産合計	13,965
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	51,706
減価償却累計額	△37,150
建物及び構築物(純額)	14,555
機械装置及び運搬具	5,589
減価償却累計額	△2,988
機械装置及び運搬具(純額)	2,600
工具、器具及び備品	5,368
減価償却累計額	△4,406
工具、器具及び備品(純額)	961
土地	20,857
建設仮勘定	112
有形固定資産合計	39,089
無形固定資産	125
投資その他の資産	
投資有価証券	6,175
差入保証金	4,157
その他	1,634
貸倒引当金	△23
投資その他の資産合計	11,944
固定資産合計	51,158
資産合計	65,124

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間
(平成29年6月30日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	1,820
短期借入金	5,000
1年内返済予定の長期借入金	3,468
未払法人税等	570
賞与引当金	456
その他	5,781
流動負債合計	17,096
固定負債	
長期借入金	2,838
資産除去債務	736
その他	751
固定負債合計	4,325
負債合計	21,422
純資産の部	
株主資本	
資本金	8,166
資本剰余金	9,031
利益剰余金	37,167
自己株式	△10,823
株主資本合計	43,541
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	3,730
土地再評価差額金	△3,554
為替換算調整勘定	△1
退職給付に係る調整累計額	△13
その他の包括利益累計額合計	160
純資産合計	43,702
負債純資産合計	65,124

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	18,242
売上原価	5,506
売上総利益	12,735
販売費及び一般管理費	11,895
営業利益	839
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	31
F C加盟料	31
受取地代家賃	16
雑収入	22
営業外収益合計	102
営業外費用	
支払利息	6
賃貸費用	15
災害義援金	16
雑損失	3
営業外費用合計	41
経常利益	900
特別利益	
固定資産売却益	0
収用補償金	36
特別利益合計	36
特別損失	
固定資産除却損	16
特別損失合計	16
税金等調整前四半期純利益	920
法人税、住民税及び事業税	472
法人税等調整額	△117
法人税等合計	355
四半期純利益	565
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	565

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	565
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	447
為替換算調整勘定	△1
退職給付に係る調整額	△2
その他の包括利益合計	443
四半期包括利益	1,008
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,008
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	920
減価償却費	755
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	2
受取利息及び受取配当金	△31
支払利息	6
収用補償金	△36
固定資産売却損益(△は益)	△0
固定資産除却損	16
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8
仕入債務の増減額(△は減少)	△173
未払消費税等の増減額(△は減少)	△336
その他	245
小計	1,358
利息及び配当金の受取額	31
利息の支払額	△6
収用補償金の受取額	36
法人税等の支払額	△918
営業活動によるキャッシュ・フロー	501
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額(△は増加)	1
有形固定資産の取得による支出	△609
有形固定資産の売却による収入	0
貸付けによる支出	△22
貸付金の回収による収入	13
差入保証金の差入による支出	△32
その他	62
投資活動によるキャッシュ・フロー	△587
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	2,249
長期借入金の返済による支出	△1,259
配当金の支払額	△1,123
財務活動によるキャッシュ・フロー	△133
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△220
現金及び現金同等物の期首残高	11,865
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,645

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、連結の範囲に含めております。